

太陽の子

2026年 1月 No.194

冬の号

発行



日立市助川町 5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



先生をお迎えしてトランスファー実践勉強会がありました。身体の構造を学びスムーズな動き、無駄のない動作を使い利用者さん、職員も安全に過ごせる努力を積み重ねます。

素敵な時間をありがとうございます

日立太陽の家 主任相談支援専門員

横田 寿子

「会話」は楽しいものですね。心が軽くなる。気持ちが明るくなる。樂しくなる。嬉しい。相手の方の気持ちがわかる。自分の気持ちを伝えられる。心と心が少しでも通じた会えた一瞬が出来る。気持ちを通じ合うこと、自分と相手がいて会話を交わすことで、気持ちを届けて、受け止めてもらう、まさにキャッチボール。投げ方が上手くいかなくとも受け止めようとしてくれる相手がいる。受け止めてから、「こういう事?」ともう一度キャッチボールが構えてくれる。いろいろな手段でのキャッチボールがあります。一人でいたり、考えたりしてもどこか寂しい。一緒に考えてくれる人がいるから不安や悲しみも半減する。一緒に喜ぶ相手がいるからこそ嬉しいことも何倍にもなる。家の中では家族と会話して、外では外の方々と会話をして生きている。声は出なくても、言葉が出なくても、表情やしぐさ、目線、笑つたり、泣いたりして発信できる。わかるうとすることで通じ合う事がたくさんある。相手が理解するためにどう伝えたらいよいのかを考え、学びながら勇気を出して伝えられているのではないかと感じます。相談支援専門員になつて、希望する生活を伺うことで、どうしたら希望が叶うのか、いろいろな方々と一緒に考える機会をいただいている。たくさんの方とのつながりに感謝しています。時には夜空を見上げおしゃべりすることも。きれいで輝き続ける星になつた方々と、心の中でおしゃべりをしていてね」と。思い出しておしゃべりをすると涙が笑顔に変わります。

先日、「重症心身障害児(者)を守る会 合同研修会」に参加させていただきました。守る会の歴史や障害福祉の動向、時代の風と共に未来に向けて前に進むことが大切だと教えていただきました。そして、同じ気持ちを持つ方々と会うことが出来て一緒に頑張つて下さる方がたくさんいることも感じました。対話をすることで前に進める。私もみなさんとたくさん対話をしたい、笑顔の会話があふれるようにお手伝いが出来たらと思っています。

「会話」は楽しいものですね。心が軽くなる。気持ちが明るくなる。樂しくなる。嬉しい。相手の方の気持ちがわかる。自分の気持ちを伝えられる。心と心が少しでも通じた会えた一瞬が出来る。気持ちを通じ合うこと、自分と相手がいて会話を交わすことで、気持ちを届けて、受け止めてもらう、まさにキャッチボール。投げ方が上手くいかなくとも受け止めようとしてくれる相手がいる。受け止めてから、「こういう事?」ともう一度キャッチボールが構えてくれる。いろいろな手段でのキャッチボールがあります。一人でいたり、考えたりしてもどこか寂しい。一緒に考えてくれる人がいるから不安や悲しみも半減する。一緒に喜ぶ相手がいるからこそ嬉しいことも何倍にもなる。家の中では家族と会話して、外では外の方々と会話をして生きている。声は出なくても、言葉が出なくても、表情やしぐさ、目線、笑つたり、泣いたりして発信できる。わかるうとすることで通じ合う事がたくさんある。相手が理解するためにどう伝えたらいよいのかを考え、学びながら勇気を出して伝えられているのではないかと感じます。相談支援専門員になつて、希望する生活を伺うことで、どうしたら希望が叶うのか、いろいろな方々と一緒に考える機会をいただいている。たくさんの方とのつながりに感謝しています。時には夜空を見上げおしゃべりすることも。きれいで輝き続ける星になつた方々と、心の中でおしゃべりをしていてね」と。思い出しておしゃべりをすると涙が笑顔に変わります。

職員リレー

自分にできる支援を考えて

日立太陽の家 相談支援専門員

山里和矢

昨年の11月から週に2日、日立太陽の家相談支援事業所でお世話になつております。週に2日ですからなかなかお会いすることができない方が多いと 思いますが、この名前、聞いたことがあります。新潟県生まれの日立市育ち、趣味はサッカーと 模型造りです（コロナ禍にはUF0キヤツチヤーにはまつていきました）。平成7年4月に社会福祉法人ひたち育成会のみなみひまわり学園に入職。その後、令和6年に退職するまで、働かせていただいておりました。といふと気づいてくださる方もいらっしゃるかもしれません。 そんな私が今何をしているかといいますと、主に携わつている仕事が「成年後見人」というお仕事になります。この仕事は何なの?初めて聞く?という方も多いれば聞いたことがあるとい

う方もいるかと思います。認知症や知的に障がいがあり、お金の事、施設との契約の事、入院の事、などを一人で行うのが難しいな、という方のお手伝いをする仕事になります。

なぜ、長年働いた仕事を辞めて、このような仕事をしようと思ったのか?と、思つた方も多いかと思ひますのでこちらもちよつとだけお話ししますと、育成社会にいた時に今のように福祉サービスが充実していませんでしたので、その当時のお母さん方とお話をしてもつと長く預かつて欲しい「レスパイトサービス」、外出に支援が欲しい「外出サポート」将来住むところがない「グループホーム」というように新しい事業を一緒に考えてきました。今は、生活介護や短期入所、通院等介助や移動支援といったサービスが充実しており、就学中の皆さんにも放課後デイといった便利なサービスができました。

沢山サービスができる、不便もだいぶ解消されて、もう自分たちで考えなくては大丈夫?と思っていたのですが、今度は「私が死んでも大丈夫?」と思つて、子どもはどうなるの?だ後、子どもはどうなるの?

「子どもが施設に入つたら私はどうなるの」という問い合わせがお母さん方から上がりました。その問い合わせに私が考えついた答えが「成年後見」という制度です。しかし、成年後見人になるには自分のいる事業所の職員は担当できない。ちょっと難しい言葉ですが「利益相反関係」になるので担当できないと、いう事が分かりました。なので、育成会を退職して自分でできる支援をしようと、思つたわけです。成年後見制度を利用してお母さん方が心配していた「私が死んだ後、子どもはどうなるの」「子どもが施設に入つたら私はどうなるの」という困りごとを支援したい。「自分にできる支援を考えて」というお題にたどりつきました。

このお母さん方の悩みもうにそのうち新しい支援策が打ち出されて私のように個人で支援する必要はなくなるかもしれません。それまでの間、頑張ります。

そんなわけですから同じような悩みを感じている方がいましたら、山里までご相談ください。最後は宣伝になつてしましました。調2日ではありますが引き続きよろしくお願ひします。

『笑顔』の『成長』をめざして
母子療育ホーム 理学療法士
手塚 拓也

あつという間に一年が終わり、新しい一年を迎えた。毎年、去年の一年間は何もできずに過ぎてしまつたなあ、今年こそは何か成遂げよう!と意気込んでは何もせず過ぎる一年を繰り返しています。一年を振り返つてみたときに、ホームのお子さんの事を考えてみると、わたしとは違い、みんな着実に成長していることがわかります。例えば、お話する言葉が増えた子や、相手を意識することが苦手な子が職員の目を見てくれば、おもちゃやおもちゃで遊べるようになつたり、歩くことも難しく、歩行器でも進めなかつた子が一歩一歩進めるようになつたり……話を挙げればきりがないくらい、みんなすごいと思います。そして、素敵な笑顔も見せてくれます。でもきっとその成長や笑顔には、本人たちの頑張りもあるし、お母さんたち家族

の支えや頑張りが沢山あるのだと感じています。ホームのお子さんたちの事を考えていると、わたしは何が出来ているのだろうと自問したり、こちらも日々張らなくては!と気合を入れなおしたり、ここで成長するきっかけをもらえているのだと気づかれられます。また、ホームのお子さんとお母さん、そのご家族の笑顔から沢山の力をもらっています。ご本人たちはそんな気はないのかかもしれません。でも、こうやつて周りに笑顔が波及しこころが動く。そんな瞬間が素敵だなあと思います。わたしも、この1年何でも引きなかつたなあ。ではなく、周りの方々に少しでも笑顔になつてもらえるように、ホームのお子さんとお母さんたちをお手本にして、日々の生活を送つていきたいと思います。



羽子板を作成しました。お花や水引などそれぞれが個性をいかした作品ができあがりました。今年もたくさんの笑顔にであえそうです。(太陽の家)



人形劇かくれんぼさん公演、人形たちの動きに釘付け、年に一度の楽しみな時間です。(ひまわり学園)



みんな全力で楽しむことができたふれあい運動会。利用者さん・保護者さん・職員みんなではいチーズ!!!(しいの木学園)



片栗粉に絵の具を混ぜての感触遊び。変化する手触りに興味津々。トロトロ具合はいかが? (母子療育ホーム)

※写真撮影のためマスクをはずしています

みんな全力で楽しむことができたふれあい運動会。利用者さん・保護者さん・職員みんなではいチーズ!!!(しいの木学園)	初めてピッピのバーベキューに 行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
羽子板を作成しました。お花や水引などそれぞれが個性をいかした作品ができあがりました。今年もたくさんの笑顔にであえそうです。(太陽の家)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
人形劇かくれんぼさん公演、人形たちの動きに釘付け、年に一度の楽しみな時間です。(ひまわり学園)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
片栗粉に絵の具を混ぜての感触遊び。変化する手触りに興味津々。トロトロ具合はいかが? (母子療育ホーム)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
ピッピ8回、9回、10回で初めて作曲をやつた (見田さんとやつた)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
ピッピ12回の時に、飯田ピーに会つた (星野Mちゃんに会つた シユガークラフトにも会つた ヒマワリを作つた)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
ピッピ13回で、笑顔を作つた (いつぱい話をしてから、友達になつた いっぱい悲しかつた)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
僕がワガママを言つて怒つたから、長く姉とケンカをした みんなに相談して、太陽居宅に行く事になつた また、黒田さんに会つた(嬉しかつた)	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする
ピッピ15回の時に、鵜沢Jさん、俺は、いっぱいピックリした	行つた 黒田さんに会つた お袋とケンカをして、お袋を転 ばせた やつちやいけない事だつた 今でも思い出して、反省をする

(前頁より)

Mさんの母は佐藤M先生と言つた

ミニピッピで初めてMCをやつた
40周年でも、少しMCをやれてよかつた

これからも色々な出会いと共に、俺は生きていく

お知らせ

◎二〇二五年年度

NPO法人日立太陽の家	利用者総数	男性	女性
三百八十三名	二百四十四名	百六十九名	百六十九名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 九月／十一月
黒澤弘明 早川太一 とく名
金澤博美

○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略) 九月／十一月
椎名将光 黒澤和子
篠原小百合

編集後記

「謹賀新年」「笑顔と感謝」
年のはじめに皆様へ
心を込めてご挨拶。

(k記)

笑顔と感謝が合い言葉

